

29-1 「御林」ひろがる真鶴半島を縦断する（距離約 10.0km）



御林遊歩道で

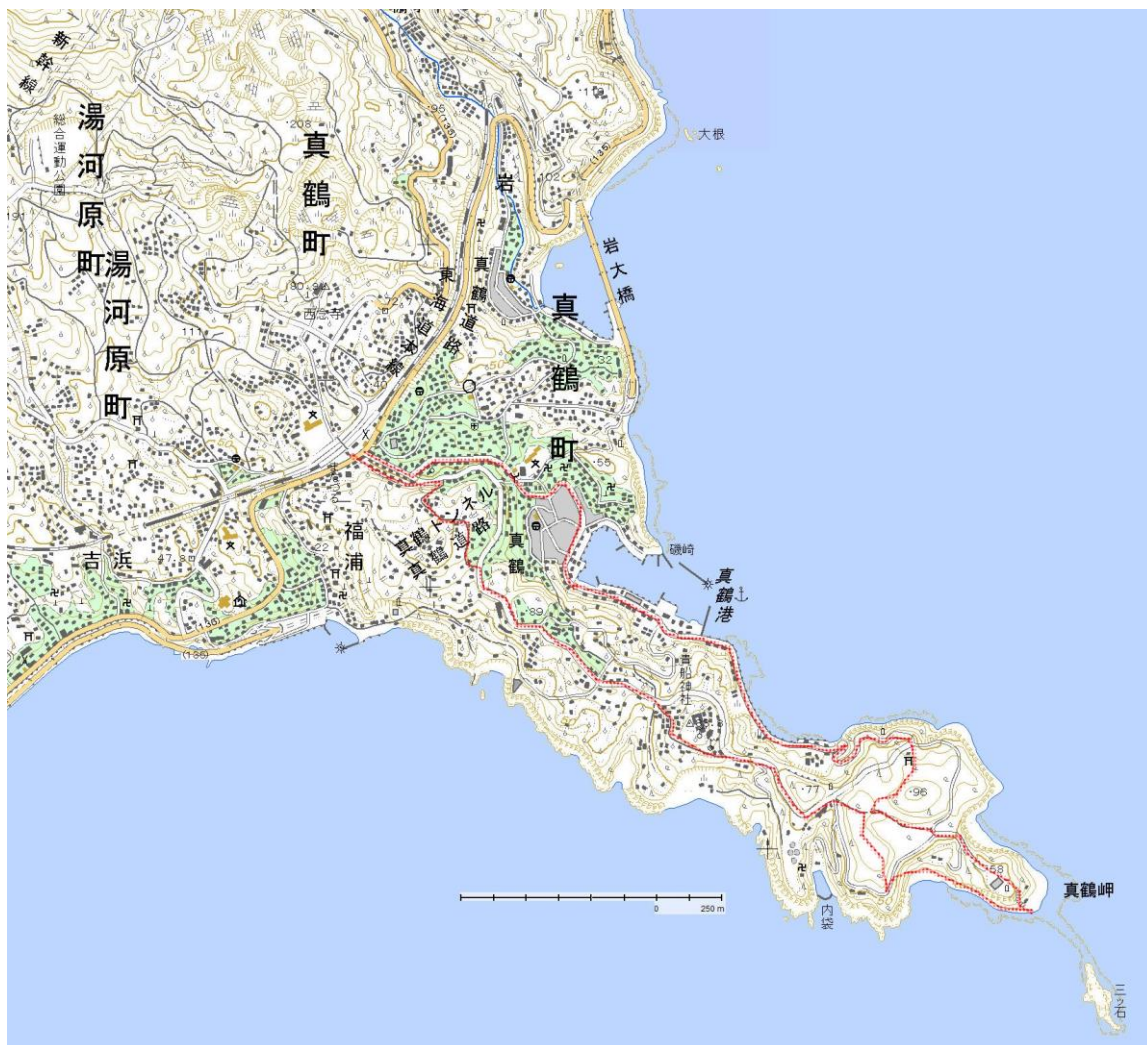
【街歩き概要】

神奈川県の実鶴半島は、長さ約 3km、幅は広いところでも約 700m ならずで、その形が鶴に似ていることから、その名がつけられたという。その実鶴半島を縦断し、小田原藩が植林したという「御留山」（別名御林（おはやし））を訪ねる。

【道順】

JR 実鶴駅→荒井城跡公園へ→二等三角点「実鶴」へ→中川一政美術館へ→御林遊歩道出入口へ→御林遊歩道→番場浦遊歩道へ→三ツ石からお林展望台へ→お林展望台→再び御林遊歩道へ→森林浴遊歩道出入口へ→貴船神社→しとどの窟から実鶴駅

ルートマップ



【街歩き解説】

①JR 真鶴駅

地図を広げ、JR 真鶴駅から「御林」の森を目指して半島の先端へと進む。

②荒井城跡公園へ

駅から南に出て、案内標識にしたがって、春には桜の見どころになるという荒井城跡公園へと進む。もちろんのこと、同公園には源義家に従って活躍した荒井実継の居城跡がある。

城跡公園から先は半島の西海岸を望む裏道をたどる。地図とにらめっこして、ほぼ南へと進み半島縦断を本格的に開始する。右手湯河原方向の海が美しく、季節によっては小路の途中でヤマユリなどに出会うだろう。眼下間近に海が見えるようになったら東へ道をとって、尻掛入口バス停付近へ出て、その後はバス通りの県道を進む。



荒井城跡公園へ / そして裏道をたどる

③二等三角点「真鶴」へ

そのまま県道を進む。貴船祭りのころなら、祭りの準備をする様子を目にすることだろう。県道が大きく東へと方向を変える大浜口入口バス停の先のY字路で、県道から離れてほぼ南へ向かう道を進む。しばらくすると道の北側に放送アンテナの立つ小山が見えて、ここには半島唯一の二等三角点「真鶴」があるから寄り道をする。

小山を下りた「山下」集落南にある木立の中の道を経て、ふたたび県道に出る。



二等三角点「真鶴」から

④中川一政美術館へ

県道が大きくカーブする辺りに、南国風な風景の中に「THE MANAZURU FIRE DEPARTMENT」とある消防分署？ が建つ。その先に、中川一政美術館があって、同館はバラを題材にした作品を多く残し、真鶴にアトリエを残した中川一政の作品約 100 点を展示する美術館だ。



消防分署 / 中川一政美術館あたり

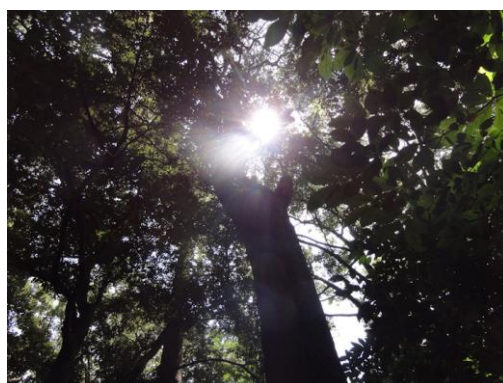
⑤御林遊歩道出入口

真鶴半島は、かつて木々がほとんど無い萱原であったといい、鬱蒼とした木々が姿を現したのは、江戸時代になってからのことだという。

幕府は、1657（明暦 3）年に江戸で起きた明暦の大火の後、木材確保を目的に各地に植林を命じた。ここ小田原藩でも、真鶴半島など各所で植林を始め、半島の森は小田原藩が植林した「御留山」（別名御林（おはやし））として、立ち入りが禁止され、明治時代以降も皇室あるいは国の財産である「御料林」として保護されてきた。

半島に群生する樹齢 350 年から 400 年のマツ、シイ、クスなどの巨木林は、用材としてばかりではなく、魚を育てる森として意識され、守られてきたのである。もちろん、現在も「魚付き保安林」として保護されている。

中川一政美術館のすぐ先右手で、この魚を育てる森、いわゆる魚付き林の中の遊歩道に入る。「御林」の中には、美術館先の入り口からほぼ東南へたどる「御林遊歩道」と、これとほぼ直角に交差する「森林浴遊歩道」があるはずだ。



森林浴遊歩道入り口 / 御林の森

⑥森林浴遊歩道へ

さて、ここで少し地図読みをする。

地形図から真鶴半島の魚付き林を読むのであるが、樹林の記号が散在するだけで、うっそうと巨木が茂るようすを地図からうかがい知ることはでない。それどころか、狭い範囲に遊歩道や周遊路らしき道が縦横に走っていて、地図にその雰囲気はない。残念ながら、地図から森の深さを知ることはできないのである。

そこで地図を読み人は、その森林内の遊歩道に注目してみる。地表を覆う森林や建築物は、空中写真からの地図作成、とくに等高線描画にとって障害になる。さらに、森林内の徒歩道の表現も同様である。

すなわち、写真測量図化を現地調査で補わない限り正確な地図表現にならないのである。しかし、これまで地図作成では、登山道を含めた徒歩道に重きが置かれてこなかった。というより、現在の地図は、太平洋戦争後にアメリカ地図づくりの影響をうけたこともあって、自動車交通を強く意識した現地調査方法や地図表現によってできている。

であるから、山岳地や森林内などの徒歩道の表現には、正確性に欠けるところがあったて、そのまま放置されてき。ところが、近年の熟年者などによる登山ブームの影響を受けて、2011年からGPS測量による登山道調査が行われて、徒歩道が修正されつつある。

しかしながら、ウォーキングなどに使用される低山、丘陵地などの徒歩道は未だ修正されていない。

そのようすを、真鶴町観光協会の「真鶴半島みどころ ガイド&マップ（縮尺約12,500分の1）」の赤色で示された散策道と、国土地理院の地形図（縮尺2万5千分の1）の黒色破線で示された徒歩道を比較・考察してみる。

地形図左に「・77」とある小さな高まりの南を巻くようにして自動車道路を進み、やや大きい「独立建物」であらわされた中川一政美術館の先へ進む。地形図では（片山哲詩碑）記念碑の記号のあるところ、ガイドマップでは美術館のある辺りで、道路は三方向へ分岐している。ここまではどちらの地図も同じような表現である。



1/25,000 地形図「真鶴岬」



「真鶴半島みどころガイド&マップ」

ガイドマップでは、美術館のあたりから魚付き林となる御林の森にかけて、緑色に塗られて、ちょっと目には森の存在を意識させるが、これは森を示しているのではない。高まりを段彩表現したものだ。このことでは樹林記号のある地形図の方が表現が優れていることになる。とにかく、いよいよ御林の深い森に続く遊歩道へと進入する。

徒歩道を進むとまもなく、十字路が待ち構えているはずなのだが（ガイドマップ①）、地形図にはその分岐はない。「御林遊歩道」③に交差する「森林浴遊歩道」②の記入がないのだ。これでは、御林全体を巡り見ることができない。

それだけではない。この十字路を右に折れて、「森林浴遊歩道」から真鶴半島のシンボルともいえる三ツ石を望む絶景ポイントを散策する「番場浦遊歩道」と「潮騒遊歩道」④の記入もない。

地形図は、等高線はもちろんのこと、記念碑や寺社などの記号のほか、細かな植生なども記入されて、基礎的な情報がしっかりしていることから地形判読が可能であり、ガイドマップなど各種主題図のベースになることから、国の「基本図」と呼ばれる。

しかし、この例のように現地調査が不十分なことが原因で、森林下の徒歩道などには不確かな部分も多く存在するから、登山やウォーキングなどに使用するときには、注意が必要である。

ちなみに、ガイドマップでは半島の先端にある「三ツ石」が陸続きで表現され⑤、一方の地形図では島（干潮時には陸続きとなる隠頭岩）となっている。これは、三ツ石が普段はおおむね陸続きでも、最大潮位の時には島となるので、「水崖線は満潮時の状態で表現する」という地形図の決まりに沿うものだから、地形図の誤りではない（詳細は「地図豆知識：海岸線と水涯線」を参照）。

そうした地図読みをしながら、少しの間「御林遊歩道」を進んだ後の交差点で右折して「森林浴遊歩道」へと進む。その後は、森林浴や自然観察という言葉が似合う森がどこまでも続くだろう。「森林浴遊歩道」には、かながわ名木100選に選ばれた立派なクロマツがあったのだが、現在は風雨によるのだろうか上部を失っている。

地図豆知識：海岸線と水涯線

地形図の上での海岸（水崖）線は、満潮界を表示していることは、よく知られている。

しかし、地図作成に使用する空中写真は、満潮時に撮影するとは限らない。したがって、干満の差が大きい地域では、現地で、満潮時・干潮時の海岸線と思われる地点を調査して地図化している。

ただし、1/25,000 地形図上の1ミリは、地上の25メートルだから、干満の差が、かなり大きくなくては、干満界を区別して表現することはない。地図のきまりでは、「干満は50メートル×50メートル以上のものを表現する」ことになっている。

それでは、それ以外の河川や湖、ダム貯水池などの水涯線は、どうなるのか。地図の決まり「図式」には、平水時を表現するとある。

ダム貯水池は、計画平水位を聞き取り調査し、これを参考として等高線を描くように表現すればいいが、河川の水流などを平水時のようすで表現するとなると難しいものがある。大きな河川の中・下流部や河口付近の河道は、季節などにより大きく変化するが、それでも制約が多い空中写真撮影を、平水時をねらって行うわけにもいかない。河川の水涯線は、少なくとも洪水時の状態で表現されることはないが、概ね写真撮影時の状態や測量・調査時のようすが表現されていると理解しておくといい。

大井川、北上川といった大きな河川では、地図を作るたびに水涯線が大きく変化する可能性があり、表現されているのは、ある日、ある時の河川の形といったものに近いだろう。



海岸線と干潟（富津岬）

⑦ 番場浦遊歩道へ

「森林浴遊歩道」から、いったん車道へ出て、すぐに海岸沿いに三ツ石へと向かう番場浦遊歩道、潮騒遊歩道④に入る。同遊歩道は、初めは林に囲まれた急坂道だが、いったん駐車場へ出た後は、さらに下って、一転して海辺の遊歩道となる。青い海の向こうには、湯河原、熱海、そして初島が見える。もちろん道の先には三ツ石も。



番場浦遊歩道入り口 / 潮騒遊歩道から三ツ石を望む

⑧ 三ツ石からお林展望台へ

三ツ石を望む平坦地には、ハマゴウ（青）、ハマボウフウ（白）といった海浜植物が花をつけていた。そして、お林展望台へ向かう坂道にはノカンゾウも。お林展望台から、今通過してきた名勝「三ツ石」が全貌できる。



お林展望台下で海浜植物ハマゴウ / お林展望台から三ツ石

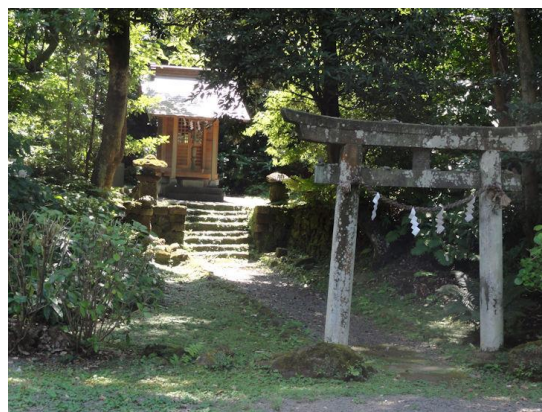
⑨お林展望台

半島の先端、三ツ石を望む林展望台には、台場砲台跡碑がある。幕末に小田原藩が、ここに台場を築いたという。真鶴町の北には古くからの採石場があって、ここから採石された小松石は、品川台場にも使われたという。休憩施設「ケープ真鶴」もある。

真鶴半島散策の際には、御林（「魚付き林」）のことはもちろんのこと、ここが「日の出」で有名なスポットであること、黒船の来襲時に岬にも砲台を建造したこと、真鶴から採石される小松石が、初期の三角点標石や品川台場の築造に使われたなどの予備知識をもって訪ねると、さらに楽しさが増すだろう。

⑩再び御林遊歩道へ

お林展望台で休憩の後は、ふたたび御林の遊歩道に入り森林浴をする。森の中では、樹齢350年から400年の大樹をいくらかでも目にすることができる。先に通過した徒歩道の交差点まで戻り、北東へと折れて森林浴遊歩道へと向かい、1650年ごろには、ここで灯明をともして岬を通過する船を案内したという灯明山へでる。標高96mの高まりは、今は樹林に埋もれている。



灯明山 / 番下岬あたりの神社

⑪森林浴遊歩道出入口

どこまでも樹林の中にある森林浴遊歩道をたどったのちは、県道へ出る。県道に出てすぐ左手には、苔むした鳥居の神社があるから、地図と対照・確認してみる。地形図には神社の地図記号があつて、より詳細なはずのガイドマップには無い。これも地形図の特徴だ。その後は、右手に相模湾を望みながら県道を進む。

⑫ 貴船神社

真鶴港の始まりを示す防波堤が見える岡の上に、889年に創建されたという貴船神社がある。貴船祭りの際に奉納される鹿島踊りと貴船の船祭りは国の重要民族文化財だ。祭りの神輿は、宵闇の日に神社の石段を下りてくる。神社を出てきた神輿は、これを乗せた「神輿船」のほか、「小早船」「はやし船」とともに賑やかに海上渡御する。



貴船祭りの貴船神社 / 「神輿船」

⑬ しとどの窟から真鶴駅

時期を合わせて訪ねて祭り見物を終えたら、県道を真鶴駅へと進む。県道わきにある「しとどの窟（いわや）」は、源頼朝が石橋山の戦い（1180）に敗れたときに、この岩屋に隠れて難をのがれたという洞窟だ。港の西浜から先は、「背戸道」と呼ばれる小路をたどる散策が楽しいのだが、今回はまっすぐJR真鶴駅へもどる。

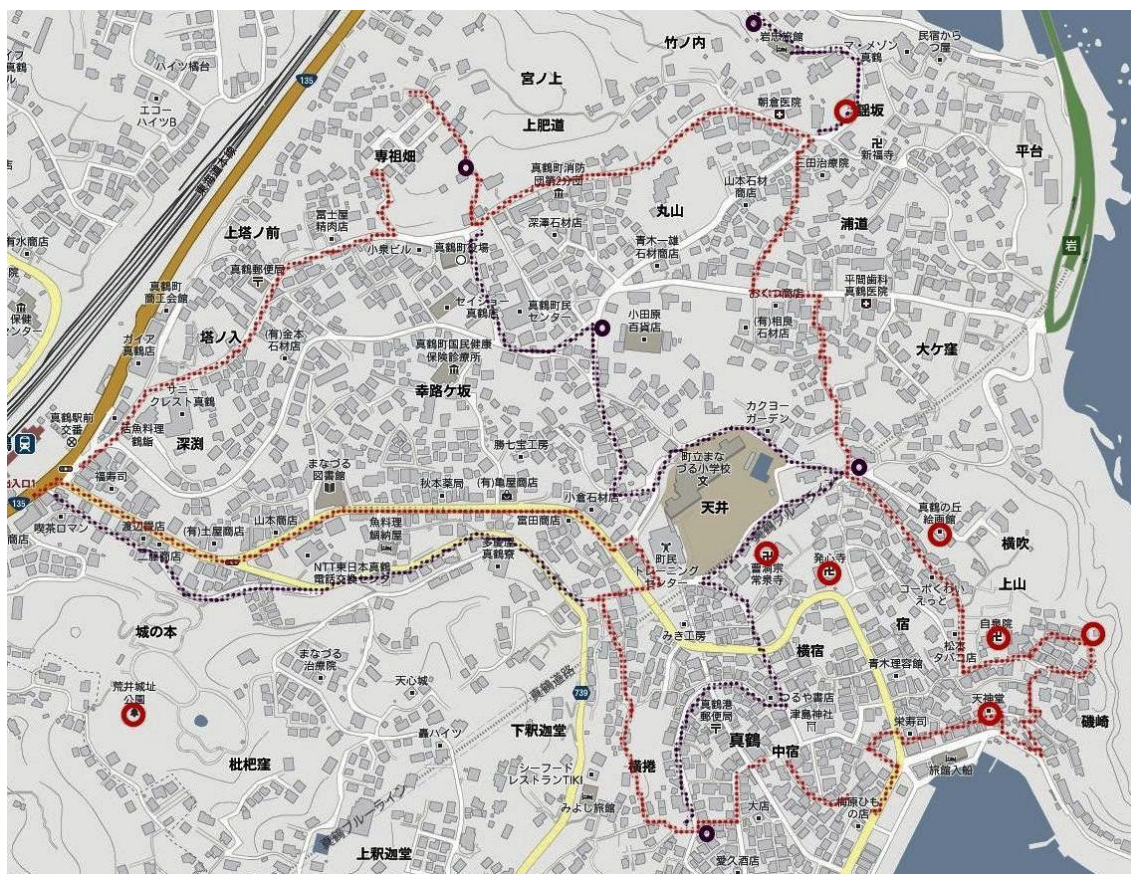


しとどの窟 / 真鶴漁港

29-2 真鶴「背戸道」散策（距離約 4.0km）

【道順】

真鶴駅→「背戸道」→真鶴港→しとどの窟→貴船神社→（バス）三ツ石→（バス）真鶴駅



+* * *+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +* * *+